

新除草・調節剤

急性経口毒性は、マウスでLD₅₀ 7,660mg/kg
魚毒性は、コイで48時間TL_m> 15ppmである。

使用方法：使用基準

作物名	適用雑草名	使用時期	10a 当り 使用量	10a 当り 散布 液量	使用 方法
芝 〔コウライ シバ・ヒ メコウラ イシバ・ ノシバ・ ティフト ン〕	ハマスゲ・ヒ メクグ等のカ ヤツリグサ科 雑草及びイネ 科畑地1年生 雑草	春期，雑 草発生前	1,000 ～ 2,000 g	200 ～ 300 l	土壌 全面 散布
	スズメノカタ ビラなどの冬 生畑地雑草	秋期，雑 草発生前	500～ 1,000 g		

使用上の注意：①芝生以外には用いないこと。
②雑草発生前に 200～300l/10a の水量で散布
する。③広葉雑草の優占する所とティフトンを
除く洋芝には使用しない。

スリートン[®]

植物成長調整剤

(取扱メーカー) 武田薬品工業株式会社

対象作物：きく（ポットマム）・きく（福助
作り）・かのこゆり・てっぼうゆり・すかしゆ
り・ポインセチア・チューリップ。

成分・作用特性：本剤は、 α -シクロプロピ
ル- α （4-メトキシフェニル）-5-ピリミ
ジンメタノールを有効成分とする緑色の液体で
ある。一般名をアンシミドールといい、植物の
茎葉あるいは根から吸収されて、その植物の節
間伸長を抑制する。この作用を鉢物植物に適用
し、草姿のよい生産物を得る。本剤は双子葉植

物だけではなく、既存の節間伸長抑制剤（わい
化剤）の効果が不充分であった単子葉植物のユ
リ・チューリップにも実用上十分な効果を示す。
また既存のわい化剤同様、本剤の作用はジベレ
リンによって拮抗的に消去される。

毒性：急性経口毒性は、マウス・ラット共に
LD₅₀ 10g/kg 以上で、普通物である。魚毒性
は、コイで48時間 TL_mは 40ppm以上で、魚毒
性はA類である。

使用方法：使用基準

作物名	使用量	使用液量	使用時期	使用方法
きく (ポットマム)	1～2cc /5号鉢	5～10cc/ 5号鉢	摘芯2週 間後	茎葉散布 土壌灌注
きく (福助作り)		5～10cc/ 5号鉢	鉢あげ2 週間後	茎葉散布 土壌灌注
ゆり 〔かのこ ゆり〕	3～4cc /5号鉢	75cc/ 5号鉢	生育初期 〔草丈5 cm内外〕	生育初期 に土壌灌 注し、出 蕾期に更 に茎葉散 布する。
	1～2cc /5号鉢	5～10cc/ 4～5号鉢	出蕾期	
ゆり 〔てっぼう ゆり・す かしゆり〕	1～2cc /5号鉢	75cc/ 4～5号鉢	生育初期 〔草丈5 cm内外〕	土壌灌注
ポインセチア			摘芯後1 か月以内	
チューリップ			生育初期 〔草丈3 ～5cm〕	

使用上の注意：①伸長抑制効果は、作物の種
類や品種、栽培条件、処理方法などによって異

新除草・調節剤

なるが、一般に使用薬量が多い程効果が高くなる傾向がある。希望する抑制率に合わせて所定範囲内で薬量をきめる。さく・ゆり・チューリップでは、使用薬量が多いほど開花時期がおくれる傾向があるので留意する。②土壌灌注する場合は、所定量の水に希釈して鉢土全体に均一に灌注する。土壌が過湿状態の時は、使用をさける。③茎葉散布の場合は、植物体全体とくに新葉部に均一にかゝるように散布する。展着剤

を加用する必要はない。④チューリップに使用する場合、マダムスボール、K&Mトライアンフに効果がなく、またホワイトエンプレス・アペルドールン・オックスフォードでは、ブランド（開花しない株）の発生率が増加するなど、品種による影響が大きいので、使用したい品種での影響については、予備テストで確認した後で使用するか、あるいは農業技術者の指導を受けるなど、十分に注意する。

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和53年度春夏作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：昭和53年12月7日(木)～8日(金)。

場所：東京トラック事業健康保険組合「健康会館」5階大会議室。

東京都千代田区四番町5-7。

TEL 03-264-2361。

- ・昭和53年度水稲・畑作関係除草剤、生育調節

剤試験成績中央検討会

日時：昭和53年12月12日(火)～15日(金)。

場所：日本都市センター（大講堂・第1会議室）。

東京都千代田区平河町2-4-1。

TEL 03-265-8211。

会議日程表

	12日(火)		13日(水)		14日(木)		15日(金)	
	am	pm	am	pm	am	pm	am	pm
生育調節剤	(大)							
動力散布機		(1)						
水稲除草剤			(大)					
畑作除草剤			(1)					

注). (大)……大講堂, (1)……第1会議室。

編集後記

野山の紅葉も終わり、深山が雪におおわれる頃ともなると、農家では冬仕度に追われるようになる。枯れ野の片すみでは、冬雑草が芽をふき、緑色をそえているが、これらの雑草は、作物の収量に影響を及ぼさない限り、退治の必要はない。しかし、芝地用除草剤のなかには、芝の休眠中に処理することにより、多年生雑草を防除する薬剤もあるので、冬の間に処理して退治するのも得策だ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和53年11月発行

植調第12巻第8号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区愛宕1-2-2 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番